

AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2008年7月 No.30 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市橋津310-1
 特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail: member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

AMDA 緊急救援センター

救える命があればどこへでも

ミャンマー・サイクロン被害に対する緊急支援活動 実施中

緊急募金のお願い

※ミャンマー保健省が国際 NGO に所属する外国人医療従事者に対し、被災地における診療活動を許可したのは、今回 AMDA が初めてでした。(政府間合意に基づくケースは、アセアン各国や日本などがあります)

大型サイクロン・ナーギス (Nargis) は、5月2日夜から3日にかけてミャンマー南部を直撃しました。政府の発表 (5月17日) によると、死者7万7,738人・行方不明5万5,917人、一方国連は、被災者は160万~250万人に上ると推定しています。雨期に入り連日激しい雨の続く被災地では、マラリアなどの感染症の流行も懸念されています。また、家族を失った被災者を中心に PTSD を含む精神疾患に陥る患者への対策が必要とされています。

AMDA は、ミャンマーで長期事業を実施している特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 (旧特定非営利活動法人アムダ海外事業本部) と連携し、5月5日、情報の収集と現地調査を開始し、下記の活動を実施しています。

- 被災状況、救援ニーズの調査 (ヤンゴン市内各所・クンジャンゴン市各所)
- ヤンゴン保健当局 (保健省緊急対策本部・ヤンゴン管区保健局) との協議
- クンジャンゴン市保健当局との協議及び活動連携
- AMDA 医療スタッフ+保健省保健局・保健省環境衛生局・クンジャンゴン市医療スタッフ+住民参加による巡回診療
- 飲料水用錠剤、石鹼などの配布と、使用方法等の説明を兼ねた保健衛生教育
- クンジャンゴン市内のシェルター (避難所) における衛生施設の設置
- 毛布や古着の贈呈
- 支援活動に従事している日本人
 細村幹夫 内科医 (呼吸器内科専門) 越谷誠和病院 (埼玉県越谷市)
 寺戸通久 救急医 岡山大学医療教育統合開発センター
 医学教育部門助教・岡山大学病院救急部
 小堀他津子 看護師 医療法人アスカ会看護 主任 以上6/7~/19

- 竹久佳恵 現地事業統括 AMDA社会開発機構 (ヤンゴン駐在)
- 畑山ゆかり 調整員 AMDA社会開発機構 (ヤンゴン駐在)
- 谷口敬一郎 調整員 AMDA緊急救援担当
 5/8~/13バンコク 6/7~/19ヤンゴン・クンジャンゴン
- *鈴木俊介 AMDA社会開発機構理事長 5/9~/16
 ヤンゴンで活動統括
- *スエ・スエ・タン ミャンマー人 医師 岡山大学医歯薬学
 総合研究科生物化学講座 留学生 6/7~/19

5月11日から6月16日までに診療した患者数・健診数は、計6,225人 (患者数6,110人+健康診断115人) で、主な疾患は、外傷・呼吸器感染症・皮膚の炎症・倦怠感/衰弱・高血圧症・めまい・節々の痛み/筋肉痛・発熱/風邪・下痢・胃痛/腹痛です。女性の患者が全体の約70%を占め、年齢層では40歳代が最も多く、復興に重要な勤労世代が診療を求めています。



巡回診療先へボートで移動



被災者である村人たちが荷物を率先して運搬してくださる



診療を待つ患者と村の保健ボランティアに水浄化液の使用方法を講習



AMDA 現地医療スタッフによる巡回診療



子どもの頭部の傷口を診察する細村医師(右)と小堀看護師(中央)



小学校で検診する寺戸医師

中国四川省地震被害に対する緊急医療支援活動

5月12日午後、中国四川省成都の西北西で発生した大地震は、死者6万人を超える未曾有の被害となりました。

AMDAは、地震発生直後に、広島県福山市の「日中青年交流協会（笹山徳治代表）」と連携し、地元四川省の医師・看護師を中心とする医療チームを編成しました。5月14日に医療チームが徳陽市スーフアの紅十字会に医薬品を届け、避難所にて診療活動を開始しました。5月末にはスーフ安市人民病院へ米3トンと水を寄付しました。

AMDA台湾支部ネットワークにより、これまでに総勢20人の医療従事者が、医療支援活動を行いました。

5月17日に震源地に近い山間部の安県ファイシュー村で巡回診療を開始しましたが、二次災害の危険があることから18日に発令された避難命令により成都へ移動しました。

19日から22日は、四川大学華西病院で外科治療や手術にあたりました。さらに、24日から29日には、岡山大学の汪達紘助教を派遣し、台湾からの精神科医師・外科医・看護師と共に四川省中西医结合医院で医療活動を行いました。同医院では、6日間でAMDA医療チームにより外科手術や怪我の処置が19件、心理カウンセリングが14件（個人8件、家族6件）行なわれました。心

理カウンセリングでは、全く言葉を発することができない5歳の子どものもいました。

また、6月3日、岡山県倉敷市高野山真言宗備中地域の寺院住職有志による「南真会」と協力し、最大の被災地の一つとされる都江堰市の慈善会（中国政府の救援物資受取機関）に、米10トンと薬7箱（解熱剤、風邪薬、咳止薬など）を贈呈しました。

6月11日から20日には、AMDA台湾支部から精神科医2人を派遣しました。12日には成都市で心理カウンセラー養成研修を実施し、12人の心理カウンセラー候補生が参加しました。13日から17日までは、綿陽市・安県で被災者440人へ心理カウンセリングを行ないました。



建物の崩壊と途方に暮れる住民（安県近郊）



体育館で巡回診療（徳陽市スーフア）



外科手術をするAMDA台湾支部外科医（四川大学華西病院、成都市）



カウンセリング中のAMDA台湾支部精神科医（四川省中西医结合医院、成都市）

汪達紘医師の報告

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
公衆衛生学分野 助教 医学博士

大地震及び頻発する余震の影響により、四川省中西医结合医院（四川省中医薬科学院附属病院）に入院している半数以上の被災者が睡眠障害や強い恐怖感があると訴えました。われわれは被災者と面談し、共感と理解を示す姿勢を通して、心理療法の1つである支持的なアプローチを行いました。

心理カウンセリングを受けた小学生楊君は、地震当時英語の授業を受けている最中でした。先生の「地震だ、机



の下に隠れて」という指示に従い、机の下に身を隠れた。とたんに教室の天井や壁が崩れ落ちた。楊君は、ともに瓦礫の下に埋もれた同級生らとは「最初は冗談を言いながら助けてと叫んだが、だんだん同級生らの声を聞こえなくなり、右側の同級生の鼻や口から吐き出された温かい呼吸を感じなくなって、左側の同級生の身体が冷たくなった…」と右腕をじっと見つめながら語りました。楊君は6時間後に救出され、右腕と右脚に骨折を負いました。楊君のような地震によって心に深く傷を植えた子ども

もたちの心のケアに早急に取り組む必要があると感じました。そのため、倒壊された学校の再建は、子どもたちが勉強・遊びを通して心の傷を癒す場所の提供になるでしょう。

帰国の日に、附属病院の王副院長及び総合外科の宋主任は「今回始めてAMDAの救援チームと一緒に活動を行い、良い経験でした。四川省の被災者救援のために遠くから来られた皆様に心から感謝します。これからもお互いの交流を深めることを期待しています。」と述べました。

※汪達紘医師は、5月24～29日四川省中西医结合医院で、被災者への心理カウンセリングとアンケート調査に従事しました。

AMDA 社会開発機構

平和とは今日の家族の生活と明日の希望を実現できる状況

長期プロジェクト実施国

ミャンマー

中部乾燥地域事業
 基礎保健サービス向上支援事業
 生計向上（マイクロクレジット）支援事業
 コーカン地域事業
 母子栄養改善支援事業
 災害救援事業
 サイクロン被災地支援事業

ネパール

中西部農村地域事業
 医療施設運営支援事業
 母子保健促進支援事業

ベトナム

北部山岳地域事業
 母子保健促進支援事業
 バクナム郡病院支援事業

ホンジュラス

エルバライソ県事業
 コミュニティ薬局運営支援事業
 母子保健促進支援事業
 世界基金連携事業
 青少年育成・エイズ・マラリア
 予防事業運営管理

ジブチ

ジブチ市及びアリスバエ市事業
 ソマリア・エチオピア難民に対する医療支援事業
 流動人口を対象としたエイズ・結核予防事業

インドネシア

北スマトラ・アチェ地域事業
 津波・地震被災地における心のケア支援事業
 紛争被災地における復興支援事業

ザンビア

ルサカ市地域事業
 非計画居住地区結核対策事業
 コミュニティ自立支援事業

ペルー

リマ市（都市スラム）事業
 母子保健促進・エンパワメント支援事業
 貧困地域における青少年のHIV/AIDS 予防教育

AMDA の緊急救援活動（2008年1月～）

■ ボリビア東部洪水被害に対する支援活動（2・3月）

AMDA ボリビア支部は、医師12人・看護師6人・ボランティア12人の計30人によるチームを編成し、サンタクルス県クアトロ・カナダス村で、診療活動と破傷風ワクチン接種、そしてマットレスや食料品を含む生活支援物資の配布を実施しました。また、サンタクルスの社会計画長官を尋ね、被災地ベニ県のテント生活者への生活支援物資を贈呈しました。



■ ネパール・ブータン難民キャンプ火災緊急救援活動（3月）

AMDA ネパール支部医師2人・医療アシスタント13人、被災したゴールダップ難民キャンプからのボランティアスタッフや難民ボランティアとともに、本部から派遣された調整員が支援活動に従事しました。仮設診療所を設置し、巡回診療を実施するとともに、殺虫剤の噴霧や支援物資の配布を行いました。



AMDA ネパール支部は、ブータン難民キャンプにおける一次保健医療の提供を UNHCR から委託されていて、各キャンプに診療所を開設しています。出火後、直ちに救援活動を開始しました。

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構

AMDA 海外事業本部の事業を承継し、2007年から社会開発を中心に、アジア・アフリカ・中南米の8ヵ国で、地域保健、貧困の軽減、社会の発展、平和の構築に取り組んでいます。

〒700-0807 岡山市南方2-13-1 ゆうあいセンター内
 電話：086-232-8815 FAX：086-232-8816
 E-mail：info@ml.amda-minds.org
<http://www.amda-minds.org/>

特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター

在日外国人を対象に、電話で各国語により、言葉の通じる医療機関の紹介や医療福祉制度など医療情報の提供を行っています。また、外国人患者受け入れに取り組む日本の医療機関に外国人の医療に関する情報を提供し、スムーズな受け入れを支援しています。

センター東京 事務電話：03-5285-8086 相談電話：03-5285-8088
 センター関西 電話：06-4395-0555
<http://homepage3.nifty.com/amdack/>

■ AMDA 「ER ネットワーク日本」 ご登録のご案内

より迅速な初動体制を確立するため、登録制度のAMDA「ER ネットワーク日本」を整備しています。緊急救援活動派遣を希望される方は、ご登録ください。なお、ご登録者には、緊急救援初動の際にお声をかけさせていただきますが、登録により、活動参加義務が発生することはありません。

※登録に関するお問合せ先：

緊急救援センター TEL：086-284-7830
 E-mail：member@amda.or.jp

ボランティアセンター

人間は誰でも他人の役に立ちたい気持がある

「国際保健セミナー in Okayama」開催

主催：AMDA AMDA 社会開発機構

5月26日、ホテルグランヴィア岡山で、エイズ・結核・マラリアの三大感染症をテーマに開催しました。

発展途上国の感染症への取組みを支援する「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」(世界基金、本部・ジュネーブ)が、5月23・24日に東京で開いた国際シンポジウムの関連セミナーで、参加者は大学医学部関係者、学生、JICAやNGO関係者など約60人でした。また、世界基金支援日本委員会議員タスクフォース幹事の逢沢一郎衆議院議員と橋本岳衆議院議員にもご参加いただきました。



■第1セッション

三大感染症への新たなビジョン

司会：(財)日本国際交流センター
理事長 山本 正氏

Ms. Caroline KAYONGA キャロライン・カヨンガ ルワンダ 保健省事務次官

Dr. Sin SOMUNY シン・ソムニー
MEDiCAM 事務局長

Dr. Christoph BENN クリストフ・ベン
世界基金 渉外担当ディレクター

*ルワンダやカンボジアにおける三大感染症の流行に対する取組みの成果や今後の課題、世界基金の果たす役割などについて報告。

■第2セッション 現場の取組みについて

司会：AMDAグループ代表 菅波茂

ホンジュラス・ザンビア事業の紹介

(特活) AMDA 社会開発機構理事長 鈴木俊介
岡山での感染症の取組み

エイズ 岡山市保健所所長 中瀬克己氏

マラリア 岡山大学大学院医歯薬学総合
研究科(薬学系)博士研究員 平本晃子氏

結核 独立行政法人国立病院機構南岡山医
療センター統括診療部長 多田敦彦氏

*世界基金の資金支援によるホンジュラスにおけるエイズ予防の活動やザンビアでの結核対策に関わる取組み、岡山のエイズ対策、抗マラリア薬開発の取組み、岡山の結核の現状について報告。

■AMDAプロジェクト ご支援のお願い

ご寄付の際には、郵便払込取扱票をご利用ください。指定寄付の場合には、連絡欄に、活動実施国名あるいは事業名をご記入ください。

※郵便振替

□座番号 01250-2-40709
□座名 AMDA

●AMDA 支部 (国内)

AMDA 神奈川県支部
AMDA 兵庫県支部
AMDA 沖縄県支部

●AMDA クラブ

AMDA 鎌倉クラブ
AMDA 神女クラブ
AMDA 高知クラブ

●AMDA 高校生会

<http://www.amda.or.jp/highschool/about.html>

AMDA 高知クラブ誕生

AMDA 鎌倉クラブ、AMDA 神女クラブに続き、全国で三番目のAMDAクラブとして、AMDA 高知クラブ(クラブ長：高知大学医学部小児思春期医学教室 高杉尚志医師)が4月に誕生しました。

5月31日、第一回目の記念講演会が、高知県南国市にある高知大学医学部の会議室で開催されました。先立って、AMDA 高知クラブ認証書の授与と役員の紹介がなされ、広く参加を呼びかけました。



■AMDA 会員の募集

	年会費	※医師・一般・学生・法人会員には、活動報告誌「AMDAジャーナル」を年4回、「AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)」を年2回、賛助会員には、「AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)」を年2回送付していただきます。
医師会員	15,000円	
一般会員	10,000円	
学生会員	7,500円	
法人会員	30,000円	
賛助会員	2,000円	

*入会ご希望の方は、同封の郵便払込取扱票の裏面をご覧ください、必要事項をご記入の上ご入会の手続きをお取りください。

■ボランティア大募集

年齢や性別にかかわらず、事務局のお手伝いなどをしてくださるボランティアを幅広く募集しています。お気軽にお問合せください。

※ボランティアに関するお問合せ先：
ボランティアセンター
TEL：086-284-7730
E-mail：member@amda.or.jp

■書き損じハガキを集めています

書き損じがありましたらAMDAまでお寄せください。切手と交換し、通信費として使わせて頂いています。未使用切手・ハガキも集めています。

※お問い合わせは
TEL 086-284-7730
FAX 086-284-8959